

水草研究会会報投稿規定

1. 投稿は本会会員に限る。但し、本会が依頼した場合はこの限りではない。
 2. 原稿内容は、水草*に関する調査、研究報告、解説（総説）、短報、諸資料、諸情報、エッセイ、他とする。なお原稿の内容に疑義のある場合は、書き直しを求めることがある。
 3. 原稿作成にあたっては、以下の諸点に留意する。
 - A. 原稿は横書き原稿用紙に楷書するか、ワープロ（和文タイプ）を用いる。
 - B. 原著に相当する報文には著者名及びタイトルの英語を併記すること。また、著者が必要と認めた場合は、英文摘要（Abstract）をつけることができる。
 - C. 図は活字の貼り込みをのぞき、そのまま製版できるように仕上げる。図（写真含む）の右上または裏面に、図の番号と著者名を書き、説明は別紙に一括する。表は別紙に書く。表の説明は各表の上側につけ、必要に応じ、下に注をつける。
 - D. 文献の引用は、文献番号ではなく、著者名と年号を明記する。
（例）『三木（1937）は、…』『…である（三木、1937）』。また、文末の引用文献は、最近号の例にならって、著者の姓名のアルファベット順に配列する。
 4. 掲載の順序と体裁、並びに校正は編集担当者に一任のこと。なお、特に希望する点があれば申し出る。
 5. 別刷を必要とする場合は、投稿時に必要部数を申し込むこと（50部以上、50部単位）。費用は著者負担とする。
 6. 送稿や編集に関する通信は、〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学理学部生物学教室 角野康郎宛とする。
- *ここで言う水草は狭義の水草に限定せず、広く湿地や水辺の植物なども含むものとする。

〔編集後記〕

今回も発行が遅れましたが、貴重な、そして興味深い原稿をいくつもお寄せいただき充実した会報になりました。投稿いただいた方々に御礼申し上げます。

間もなく環境庁版レッドデータブックが出ますが、最後まで情報が十分に集まらなかったのが海草。それだけに中庭さんのような報告が積み重ねられることが大切です。下田さんほかの中池見からの報告。液化天然ガス基地の建設が延期されたとは言え、低湿地や放棄水田の保全のあり方に大きな問題を投げかけている場所。まだまだ議論は続くでしょう。ガガブタで報告された葉からの再生現象に驚かれた方もおられるのではないのでしょうか。実はこの現象、日本でも三木茂先生の時代から注目されながらほとんど研究が進んでいない問題です。藤井さんのヒキノカサに関する報告。この会報は狭義の水草に限らず湿地の植物に関する報告も歓迎していますので、どんどんご寄稿下さい。ホシクサ属に関する報告は3報目。在野の研究者である高田さんのライフワークのひとつになりそうな力作です。ホシクサ属の分類が整理されるまでには、まだ紆余曲折がありそうですが、その際の基礎になる実に貴重な観察結果が含まれています。上赤さんのヒシモドキとデンジソウの続報も、現地の様子がよくわかるものです。このような報告は、記録としてはもちろん、行政に働きかける際の資料としても役に立ちます。各地からこのような報告が集まることを期待しています。最後のジュンサイの饅頭。こういう軽い記事もどんどんお寄せ下さい。 （角野）

水草研究会会報 69号

2000年3月25日印刷

2000年3月30日発行

発行 水草研究会

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学国際文化学部生物学教室 角野研内

TEL (078) 803-5719

FAX (078) 803-5719

印刷 中村印刷株式会社

〒657-0035 神戸市灘区友田町3-2-3